

弘前大学
広報誌

ひろだい

vol.

7

2006.4



学長に聞く

2008年の
暫定評価に向けて、
中期計画の完遂を目指す

[シリーズ] 花開く研究
産学連携を見すえた
国際的視野の地域ブランド研究で、
青森経済の活性化に貢献。

佐々木純一郎 大学院地域社会研究科教授

全国に先駆け
アスベスト関連疾患、中皮腫の
治療法開発に取り組む。

鬼島宏 医学部教授

弘前大学施設紹介
弘前大学八戸サテライト

[学内トピックス] 話題の広場から
トリノ冬期オリンピックに出場 他

「教育」「研究」「地域貢献」 で着々と成果

－ 弘前大学は2004年4月に国立大学法人となりました。遠藤学長はその2年前の02年2月に学長に就任し、今年2月からは、昨年11月の学長選考会議の選出を受け、再び学長として2期目のかじ取りを担うことになりました。抱負をお聞かせください。

「他大学と同様、厳しい時期の学長ですが、しっかりやっていきたいというのが抱負です。具体的にはまず、法人化に際して文部科学省に提出した中期目標・中期計画を完遂するというを最大の目標としています」

－ 国立大学法人法には、国立大学法人は6年を期間とする中期目標を定め、その目標にもとづいて中期計画を作成し、文部科学大臣の認可を受けなければならない、とあります。

「その6年のうちの2年が過ぎ、あと4

年後に第1期が終了します。第1期終了の1年前、すなわち今から2年後の08年には、中期目標・中期計画の成果に対する暫定評価が実施されます。文部科学省は、この評価にもとづいて次の資源配分を決めると伝えられています。ですから、運営費交付金の減額等を迫られることのないように、中期計画の完全実施を使命と考えて頑張っていきたいと思っています」

－ 中期目標・中期計画では、「教育」「研究」「地域貢献」の3つを柱に掲げ、魅力ある弘前大学づくりに取り組んでこられました。これまでの2年間を総括すると。

「第1の『教育』については、いかに多くの優れた人材を社会に送り出すか、で評価されます。このことを私は一言で、『学生の質の保証』と申し上げてきました。すなわち教養、専門性、体力、人格のどの面でも、さすがは弘前大学の学生だといわれる人材を育成して、大学が保

証して社会に送り出すということです。その成果は、この2年間をみても、例えば国家試験・国家公務員等の合格者増加や就職率アップという具体的な数値となって表れています。また課外活動でも、多くの団体が素晴らしい成績を挙げ、確実に質が向上しています」

－ 2番目の「研究」については。

「『研究』は、国際的・先端的な研究、地域社会に根ざした研究、そして日本の科学を底支えする基礎研究を、いかに多く積み上げるかで評価されると思います。私のところには論文や卒論が国際誌に掲載されるなどして学長表彰の申請があがってくるのですが、それを見ていると個別的な研究レベルが上がっていると感じています。ただし、これは3番目の『地域貢献』にも関係することなのですが、地域財政・産業基盤のせい弱さなどの地域間格差、大学間格差などがあって、努力のわりに報われない部分があるのも事実です」

2004年4月に国立大学法人となった弘前大学では、以来さまざまな改革に果敢に取り組んできた。この激動の時代に学長として改革の先頭に立ってきた遠藤正彦氏が2月に再任。これから4年間、再び学長として任を果たすことになる。これまでの成果と今後の抱負について聞いた。

学長に聞く

2008年の暫定評価に向けて、 中期計画の完遂を目指す



産学官連携フェア「見てみて、聞いてみて、触ってみて、弘前大学」in 八戸

－ 中央の大学に比べると、地方大学はどうしても研究予算が限られたり、協力し合う民間企業なども中小のところが多いわけですね。

「残念ながら地域間格差、受皿としての地域の産業基盤のせい弱さは認めざるをえないところであります。本学には地域貢献の一つとして産学官連携にも積極的に取り組み、その窓口として地域共同研究センターがあるのですが、多くのハンディがあるなかでも、本当に努力してくれています」

新発想のチャレンジ 「GOGOファンド」

－ 地域財政・産業基盤のせい弱さは、そう簡単に改善されるものではないように思いますが、そのハンディを克服するための何かアイデアなどはございますか。

「産学共同研究のあり方を変えて、昨春秋から『GOGOファンド』という愛称をつけた新しい制度を始めることにしました。これまで国立大学の共同研究は、企業が研究費を負担し、大学は研究設備と研究者を提供するというかたちが多かった。そうではなくて、弘前大学自身が研究費を負担し、『問題や課題があったら、とにかく大学まで来てください。研究費の心配はしなくていいですよ』というのが『GOGOファンド』です。本学もお金に余裕があるわけではないですが、大事なことは、一緒にやろうということ、本学に来てくれたら問題が解決できますよということなんですね」

－ 大学側がそこまでやるというのは、あまり聞いたことがありません。

「たぶん全国でも初めてのケースだと思います。そして本大学では、研究設備と研究結果を解析する専門家、操作するオペレーターも開放していきます。研究には高額な機械や設備が必要になりますが、購入費や維持管理費、オペレーターを雇う人件費は企業にとって大きな負担です。大学が協力すれば、企業の負担は軽減されるはず。大学は敷居が高



多くの本が「弘前大学出版会」から刊行された。



ガスクロマトグラフ質量分析計装置
- 分子量の測定に用いられる -
企業へ開放している機器一覧は、弘前大学機器分析センターホームページ上でご覧頂けます。

いといわれた時期がありましたが、地域に開かれた大学でありたいと思っています」

－ 着々と改革が進んでいるんですね。

「大学の改革に近道はありません。河原に小石を積むように、小さなことをたくさんたくさん積み上げていかないと変わっていきません。大変な努力が必要です。今後の方針を先にお話しますと、小さな改革を積み重ねていくということ、それに尽きます」

－ 今後の方針ということでは、今年1月の「学長年頭あいさつ」で「地域に今までよりも一層積極的に関わってまいります」とも述べておられます。

「弘前市は人口約19万人ですが、本学の学生・教職員等の数を合わせると1万人を超えます。つまり弘前市の人口の約19分の1は本学の関係者。教職員の人件費は150億円ですし、学生・大学院生の95パーセントが弘前市内に住んでいて、学生らはアパート代や生活費などで年間約80億円のお金を地元へ落としている計算になります。その意味でも大学のあり方は、地域の経済・文化・教育・医療等に大きな影響を与えているのです。ですから私の希望からいえば、もっと地元の人に弘前大学に興味をもっていただきたいと思っています。また同時に、こちら側からも積極的に関わっていきたく考えています。弘前大学の存立するこの地域を住みよい街、住みたくなる街にすることは、入学志願者の増加や教職員の流出防止および人材確保につ

ながり、それが地元経済をうるおすことにつながり、弘前大学の魅力にも通じることになるのですから」

－ 最後に本年の新しい事業などがありましたらご紹介いただけますか。

「大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程の設置申請、教育学部臨床心理士養成の認定、理工学部・農学生命科学部のJABEE認定など、希望の持てる多数の動きがあります。法人化と同時に設立した『弘前大学出版会』も順調で、今年も素晴らしい本がたくさん刊行される予定です。そしてこれは事業ではありませんが、トリノ五輪の女子カーリング競技では、人文学部学生の日黒萌絵さんをメンバーとする「チーム青森」が、強豪のカナダ・イギリスを破るなど活躍してくれました。教職員・学生の中からオリンピック選手を出すのは本学として初めてのことで明るい話題を提供してくれました。厳しいながらも希望の持てる年であることを共通認識として、教職員・学生のみなさんと力を合わせて、魅力ある弘前大学をつくっていきたくと思います」

－ ありがとうございます。

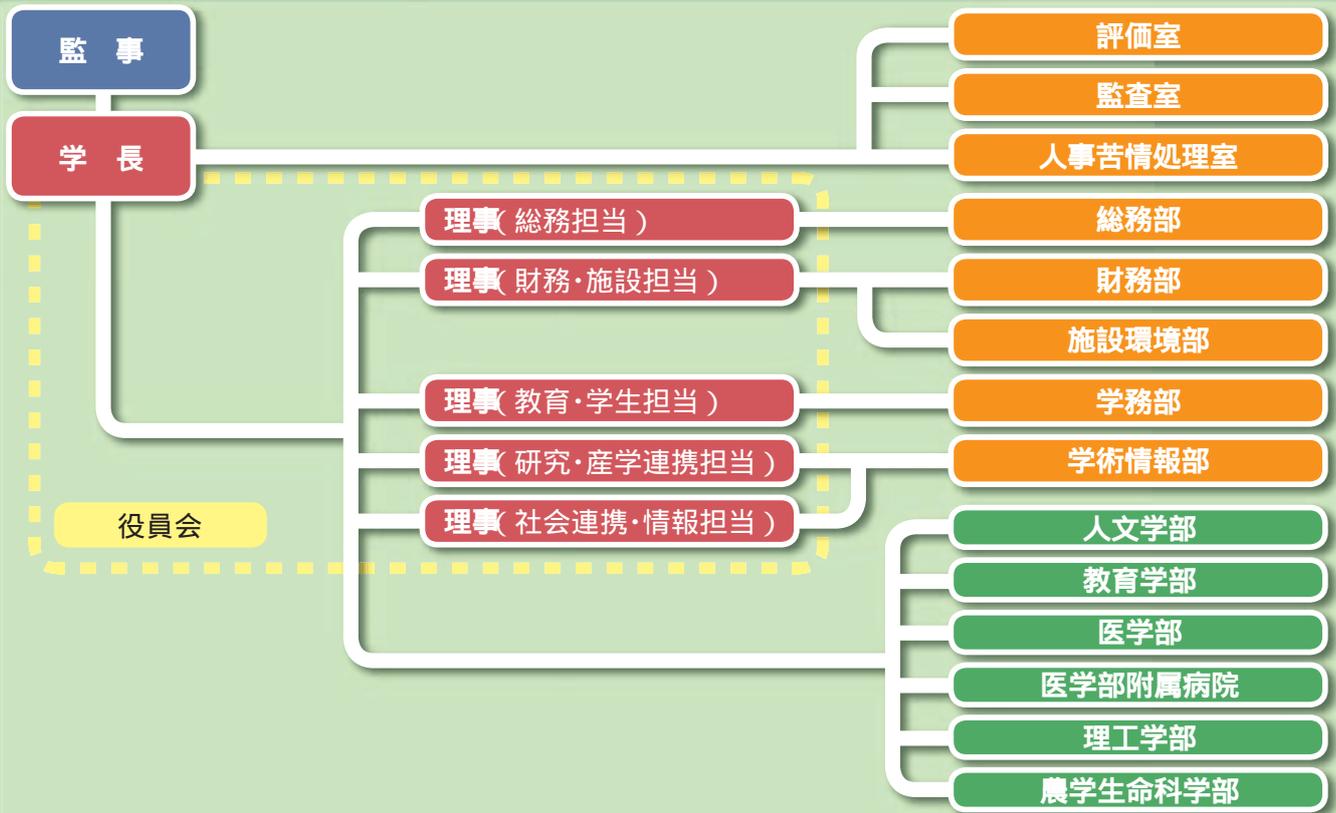


遠藤 正彦 学長

宮城県仙台市出身。1963年弘前大学医学部卒業、68年東北大学大学院医学研究科修了。東北大学医学部助手・講師を経て、75年弘前大学医学部助教授、81年教授、96年医学部長。02年2月に学長就任し、06年2月から学長2期目。専門は糖鎖工学と結合組織の生化学。「エンドー - グルクロニダーゼ」など6種類の酵素を世界に先駆けて発見した。趣味は山歩きと、自宅で育てているチューリップ、ヒヤシンスなどの花の世話。

弘前大学の役員等新体制

新組織図



役員等紹介(平成18年4月1日～)

総務担当(副学長)



【最終学歴】
昭和51年3月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了

【主な職歴】
昭和58年4月 弘前大学人文学部助教授
平成元年4月 弘前大学人文学部教授
平成9年4月 弘前大学評議員
平成13年4月 弘前大学人文学部長

財務・施設担当(事務局長)



【最終学歴】
昭和48年3月 東北学院大学経済学部経済学科卒業

【主な職歴】
平成元年4月 豊橋技術科学大学総務部会計課長
平成4年4月 文部科学省
平成12年6月 国立科学博物館総務部長
平成14年4月 京都大学企画調整官
平成16年4月 国立大学法人京都大学企画部長
平成16年7月 国立大学法人福岡教育大学事務局長

教育・学生担当(副学長)



【最終学歴】
昭和47年3月 山形大学大学院工学研究科修士課程修了

【主な職歴】
昭和47年4月 山形大学工学部助手
平成3年4月 山形大学工学部助教授
平成9年10月 弘前大学理工学部教授
平成16年4月 弘前大学学生就職支援センター長

研究・産学連携担当(副学長)



【最終学歴】
昭和53年3月 東北大学大学院農学研究科博士課程後期3年の課程修了

【主な職歴】
昭和62年1月 東北大学農学部助手
昭和62年4月 弘前大学教育学部助教授
平成6年4月 弘前大学教育学部教授
平成13年4月 弘前大学地域共同研究センター長
平成14年4月 弘前大学大学院地域社会研究科教授兼務

社会連携・情報担当



【最終学歴】
昭和44年3月 法政大学経済学部商業学科卒業

【主な職歴】
昭和39年4月 青森県採用
平成11年4月 青森県健康福祉部医療業務課長
平成13年12月 青森県健康福祉部自治体病院機能再編成推進チームリーダー
平成15年9月 青森県環境再生対策室長
平成17年4月 青森県健康福祉部長

監事(常勤)



【最終学歴】
昭和37年3月 明治大学農学部卒業

【主な職歴】
昭和37年4月 青森銀行入行
昭和58年4月 同 簡井支店長
昭和60年4月 同 五所川原支店長
昭和62年4月 同 弘前支店長
平成元年6月 同 取締役
平成9年6月 あおぞんディーシーカード(株)取締役社長
平成13年6月 あおぞんリース(株)取締役社長
平成15年6月 青森日本信販(株)取締役会長

監事(非常勤)



【最終学歴】
昭和41年3月 中央大学大学院商学研究科博士課程満期退学

【主な職歴】
昭和39年4月 中央大学商学部助手
昭和43年4月 千葉商科大学商経学部講師
昭和46年4月 千葉商科大学商経学部助教授
昭和50年4月 武蔵大学経済学部助教授
昭和52年10月 武蔵大学経済学部教授
平成8年4月 日本大学経済学部教授
平成13年10月 青森公立大学経営経済学部教授
平成15年4月 青森公立大学学長

学長特別補佐



【最終学歴】
昭和50年3月 弘前大学大学院医学研究科修了

【主な職歴】
昭和50年6月 弘前大学医学部附属病院助手
昭和53年5月 弘前大学医学部附属病院講師
昭和62年1月 弘前大学医学部助教授
平成11年4月 国立弘前病院皮膚科医長
平成12年12月 弘前大学医学部教授

産学連携・社会貢献目指す八戸の拠

工業集積地八戸と連携構築を

弘前大学八戸サテライトは、本学の分室としての機能をもった八戸地域での活動拠点です。産学官の研究協力、生涯学習、広報活動、その他教育研究に関する事業をおこない、弘前大学と地域社会の密接な連携を図る大切な役目を担っています。

開設されたのは2002年6月1日。当時、地域共同研究センター長でサテライト副室長を兼務した加藤陽治副学長は、設置の経緯を次のように語ります。

「本学と八戸地域とは地理的にも遠く、また津軽と南部という歴史的背景などもあって、両者の結びつきは希薄でした。しかし本学が産学官連携を推進していくにあたっては、どうしても県の重要な工業集積地である八戸地域と、強い結びつきを築く必要がありました。産学官連携の窓口である地域共同研究センターから要望を大学側に提出し、現学長にそれを認めていただいたのがサテライト開設のきっかけになりました」



八戸サテライト内の教室。テレビ会議システムが整備されていて、弘前大学や東北大学未来科学技術共同研究センターなどと双方方向の遠隔授業・質疑応答ができる。写真は、八戸サテライトでの講演会を弘前大学でも同時受信している。

積極的に出向きニーズに耳を傾ける

八戸サテライトが開設されるまで八戸地域の企業の多くは、地元八戸、そして岩手、札幌、仙台などの研究機関に目が向いていた。弘前のことはあまり意識になかったのが実情でした。弘前大学ではサテライト開設後、まず企業のみならず地域の人たちに弘前大学を認知してもらうために積極的に出向くことから始めました。しかし、最初はなかなか思いが伝わりませんでした。時には「弘前大学さんは基礎系で、応用系ではないんじゃないですか?」「津軽のほうでおやりになっていればいいのでは」などと冷たい反応が返ってくることもありましたが。しかし産学官連携コーディネータ

ーが地道に各企業をまわったり、サテライトの担当スタッフが地域のニーズに耳を傾け、大学の持っているシーズ(種子)をていねいに紹介するという努力を継続し続けました。学長もみずから先頭に立って各企業やマスコミなどを訪問しました。やがて「弘前大学は本気になって、八戸のことを考えてくれている」、そんな空気がしだいに地域に浸透していきました。

総合大学の強みを地域に提供

八戸サテライトの産学連携共同研究から、初の製品化が実現したと発表されたのは2004年4月のことでした。人文学部の研究室と地元建設コンサルタント会社による「地籍管理・土地情報維持管理システム」という商品でした。以後も八戸サテライトでは、全学の研究や産学連携の諸活動を紹介するイベント『見てみて、聞いてみて、触ってみて、弘前大学』を開催するなどさまざまな活動を続けています。加藤副学長は「八戸工大さん、八戸高専さんの研究者の方に本学の地域共同研究センターの客員教授になってもらうなど、今後の連携についてもさまざまな議論を続けています」と話し、「八戸地域の研究機関にはない医学部や農学生命科学部などを持つ本学と、互いに補完・融合するなどして、さらなる大きな地域貢献ができるのではないかとビジョンを描いています」。



第3回八戸地域研究者と弘前大学大学院地域社会研究科との懇談会(2006年2月4日)

地域住民にも着実に浸透

八戸サテライトの存在は、企業関係者ばかりではなく、一般の地域住民にも着実に浸透してきています。常駐スタッフの古谷美由紀さんは、「生涯学習の講演会や講座に参加する人の中には常連さんもいらっしゃいます。本施設ではインターネットによるテレビ会議システムを利用しているの



推薦入試説明会(2005年8月18日)

すが、初めて参加した方は『双方で弘前にいる先生と質疑応答ができるなんて、すごい時代になったね』と驚かれます。今後は「地域の方たちにアンケートなども実施し、どういうテーマの講演会や講座を求めているのかニーズを確かめ、それを反映しながら動員を図っていただけたいですね」と目標を語ります。

加藤副学長は「『相談したくても大学は敷居が高い』『大学の先生は気むずかしくて相談しにくい』。そんな心配をすることはありません。八戸サテライトを窓口にして、どんどん弘前大学を活用していただきたい。私たちも全力でご要望に応じていきます」と気軽な来訪、問い合わせを呼びかけています。

弘前大学八戸サテライト

〒039-1102 八戸市一番町1丁目9番22号
(財)八戸地域地産産業振興センター(ユートリー)4階
TEL・FAX / 0178-70-2590
E mail / sate@cc.hirosaki-u.ac.jp
開業時間 / 火曜日から土曜日までの10時~17時



八戸サテライトが入居するJR八戸駅東口の「ユートリー」(八戸地域地産産業振興センター)



佐々木 純一郎 ささき・じゅんいちろう

〔略歴〕 弘前大学大学院地域社会研究科・地域産業研究講座教授 / 1962年6月、仙台市生まれ。85年金沢大学経済学部経済学科卒、88年同大学大学院経済学研究科修士課程修了。95年大阪市立大学大学院経営学研究科博士（商学）、93年弘前大学人文学部講師、95年同大学人文学部助教授、02年同大学大学院地域社会研究科助教授、05年同教授

〔専門分野・研究概要〕 東アジアの経済発展の説明。特に中国経済の分析を中心として、アジアNIES（新興工業国・地域）及びASEAN（東南アジア諸国連合）の三者の比較から、他地域への経済発展の波及の可能性を考察している。最近では日本と東アジアの国際分業について、企業の国際競争と地域経済の国際化に焦点をあわせ多面的な分析を試みている。

地域ブランドで地域活性化

「地域ブランドは、地域の生き残り策の一つです」

大学院地域社会研究科の佐々木純一郎教授はこう話し、沈滞・低迷が続く青森経済を活性化させ、地域産業の発展・再生、雇用創出などにつなげていくには地域ブランドを有効に活用していくことが大切と指摘します。

ブランドとは、辞書を引くと「商標」「特定生産者による品物（の全体）」とあります。自社製品を他社製品と区別するシンボル、デザインであり、さらに今日では、消費者に対し製品やサービスの出所表示や品質保証を与え、安全・安心・ステータス等の象徴的価値までも提供しています。地域ブランドとは、まさにこの今日的価値を強くおびたもので、その地域ならではの自然、歴史、文化、風土などと関連した特定の商品やサービスのこと。地域ブランドには、観光や商・工・農・漁業などの差別化、活性化、振興に取り組む地域の人たちから大きな期待が寄せ



研究室での佐々木教授

られています。青森県でも2001年頃から「AOMORI」ブランド創出の取り組みが始まり、現在は「攻めの農林水産業」をテーマに競争意識をもった積極的なブランド形成が推進されています。

佐々木教授はこのような流れの中、県農林水産部からの委託研究で農産物ブランドに関する基礎調査をおこなったり、独自で企業の個別調査や流通現場の最前線にまで足を運んだフィールドワークを重ねてきました。その研究成果は、産学官連携の取り組みとして、県への提言や民間企業の経営戦略についてのアドバイス、新聞への連載、公開講座などさまざまな形で地域に提供されてきました。

地域住民が果たす役割の可能性

佐々木教授はこれまで、「地域ブランドを論じる際には、国際的視野を忘れてはならない」と指摘してきました。たとえば青森県の特産の一つであるニンニク。品質の良さはだれもが認めています。しかし、中国産との価格競争にも競り勝てなければなりません。この例を挙げるまでもなく、国内の産地間競争だけを意識していればいい時代はとっくに終わっていて、青森県産品には国際競争力が問われているのです。

それでは、その激しい国際競争に生き残っていくためにはどうしたらいいのでしょうか。佐々木教授は、その際の大事な点について次のように話します。

「品質というのは必要条件。品質以上に重要なのは、消費者、お客様がどうイメージするかということ。作り手側の発想として、いいものを作っていれば売れるはずであるとい

産学連携を見すえた 国際的視野の地域ブランド研究で、 青森経済の活性化に貢献。

魅力ある地域づくり、地域経済の活性化を目的として全国各地で地域ブランドへのさまざまな取り組みがおこなわれています。弘前大学大学院地域社会研究科の佐々木純一郎教授の研究室では「東アジアの地域統合の進展と日本の地域経済の対応策」という大テーマのもと、地域ブランド、雇用問題、中小企業の海外展開などをキーワードにした国際化のなかの青森経済を研究。その成果は同大学の産学連携の一環として、企業経営など広範な分野に提供されています。



大鰐シャモロックと関連施設。大鰐町の建設業者が、業界不振の中で新たに模索して参入した青森シャモロックで、県レベルよりさらに地域をしばったブランド化に挑戦している。青森シャモロックは、味に定評があり、首都圏の高級料理店などから引き合いもある県産の高級地鶏



う発想がよくありますけれども、それだけでは十分じゃないんですね。相手の方がどう受けとめるかが大事です」

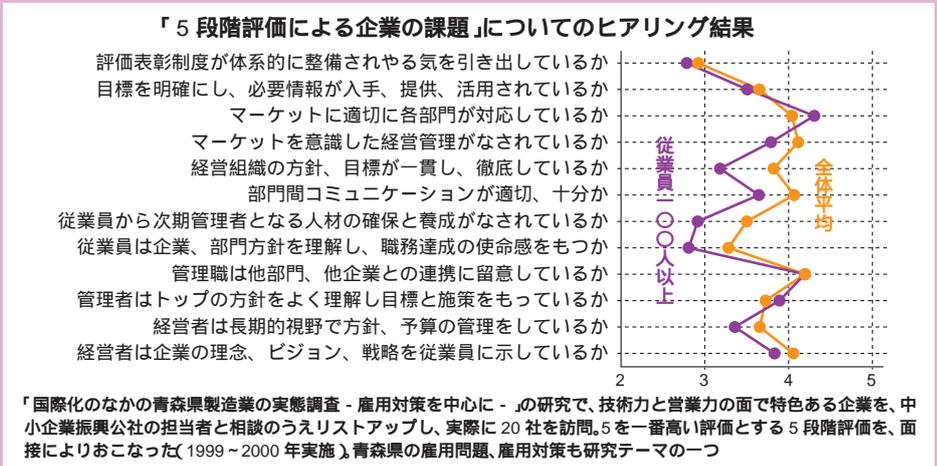
また「これまで以上に個々の地域（産地）の創意工夫と努力が必要になってきます。その歩みにはリスクも大きいでしょうが、成功した場合の達成感は、地域づくり全体にとっても強い自信になるはずですよ」と困難の先にある希望を提示し、エールを送っています。

佐々木教授はさらに、地域住民の役割についても指摘しています。

「消費者として地産地消に参加するという役割もありますが、地域住民の役割には、それ以上に大きな可能性が秘められていると思うのです。例えばクチコミによるマーケティングで、県産品の販売促進を応援しようという試みがあります。また、県よりも小さな地域単位でのブランドづくりや、大手流通に依存しない販売方法の確立などにも大きな役割を果たしていけると思います。それらのことは、地域ブランドを通じて、地域の人たちが自分たちの生活や暮らし、生産物などに誇りや自信をもつことにもつながるだろうし、とても重要な意義があることだと思います」



「築地仲卸伏高」の店頭の屋号。伏高は築地がかつお節、昆布、煮干などを扱う老舗の仲卸。地域ブランドの販売戦略を調査するために伏高をはじめ全国各地を訪問し、実践的な政策提言を含む報告書を取りまとめて青森県に提出している



地域の人材育成にもっと力を

佐々木教授の研究室の大テーマは、「東アジアの地域統合の進展と日本の地域経済の対応策」です。前述の地域ブランドの研究は、それに含まれる一つの個別テーマです。そしてこの「地域ブランドの研究」のほかに「地方中小企業の中国事業(2005年日本貿易学会全国大会統一論題報告)」と「青森県の雇用創出のための基礎調査。企業誘致と異業種参入」の合計3つの研究プロジェクトをもっています。この3つのテーマはそ



ホクレン農業協同組合連合会のビル。人文学部・佐々木ゼミの卒業生のなかには、ホクレンの広報担当者として、ブランドづくりの最前線にたずさわっているOBもいる。北海道6万6千戸の農業生産者と、149の農業協同組合などからなる連合会がホクレン

れぞれ密接な関連を持っています。突き詰めれば、地方の自立、地域の生き残り策を提言する研究といえるでしょう。

佐々木教授は、自分がテーマとしている各分野の課題解決には何より「地域の人材育成」が重要だと言います。

「地域ブランドが地域を変える突破口になっても、持続するのは大変です。地域ブランドに取り組むのも人、それを続けていくのも人。自治体は人づくりにもっとお金をかけていくべきだと思います。志や理念をもった人が県内各所に散らばって、互いに切磋琢磨し、協力しあっていくのがますます必要になっていくと思います」

佐々木教授は弘前大学の青森、八戸のサテライト運営委員会の委員。地域経済、地域ブランド、企業経営に興味を持つ人に、サテライトが実施する講座への気軽な参加も呼びかけています。また、地域社会研究科は、後期博士課程3年のコースのみの設置です。ただし修士課程、博士前期課程を経ずに、学部卒でも要件を満たせば入学が可能とのこと。佐々木教授は、人文学部・経済経営課程のゼミや人文社会科学研究科(修士課程)の授業も担当しています。

弘前大学では、各学部における特徴ある教育、研究及び社会貢献に特化した研究者等の集団を組織化し、研究室の前に看板を掲げた学部附属のセンターを設置しています。

今回は、人文学部、教育学部、医学部医学科の各センターの概要、取り組みなどをご紹介します。次号では、医学部保健学科、理工学部、農学生命科学部のセンターをご紹介します。

人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター

TEL:0172-39-3190 FAX:0172-39-3190



当センターは、縄文時代の終末に東北地方を中心に盛行した亀ヶ岡文化を多方面から研究し、学界に貢献するとともに、地域のすぐれた文化遺産であることを顕彰し、地域社会の活性化に貢献することを目的とします。そのため小さな展示室を作りました。したがってセンターの活動は、亀ヶ岡文化を学問的に研究するだけでなく、発掘調査を通じて優良な資料を収集し、研究資料と展示室の充実を図る。展示室で、研究成果を基礎にしたミニ博物館活動を行い、市民にも公開する。青森県内の優れた考古資料コレクションを調査して、学術資料化を図る。地域社会と連携した活動(調査・講演・勉強会など)を行う、などを考えております。昨年、センター開設を記念してミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」を行いました。小さな展示

室でしたが、東北大学考古学研究室などの協力を得て、亀ヶ岡文化に関する展示では過去になかったほどの資料が集まり、会期中(10月28日～11月23日)に1607名の入場者がありました。これからの活動に、みなさまのご協力をお願いします。

センター長 藤沼邦彦(文化財論講座 教授)
関根達人(文化財論講座 助教授)
須藤弘敏(文化財論講座 教授)
杉山祐子(文化財論講座 教授)
宮坂 朋(文化財論講座 助教授)
山田麻子(文化財論講座 助教授)
丹野 正(大学院地域社会研究科 教授)

人文学部附属雇用政策研究センター

TEL:0172-39-3198 FAX: 0172-39-3198 E-mail:eprc@cc.hirosaki-u.ac.jp



雇用政策研究センターは、青森県内における雇用実態や問題の調査研究をおこない、その成果の公表や政策的提言などにより地域社会などに寄与すべく活動しています。人文学部校舎の112室を研究拠点にして8名の学部教員と1名の学外研究協力員、それと事務スタッフで構成され、計量分析、企業調査、社会調査の3リサーチグループをもって県内の労働者移動性向分析や県出身企業家の意識調査、若年者の就業意識調査などに取り組んでいます。2005年には青森市で「青森県の労働市場の現状を考える」と題したフォーラム、八戸市で「八戸地域の雇用状況を考える」と題したビジネス講座をともに公開で開催しました。

2006年になってからは、広報誌の『ニュースレター』第1号に加えて、センターによる調査研究の最初の成果となる『若年者の就業状況と意識に関するアンケート調査報告書』を刊行しています。現在は、後者の調査を継続しているほか、「地域ブランドと雇

用創出」をテーマとする次なるフォーラムを企画しています。

センター長 四宮俊之(ビジネスマネジメント講座 教授)
リサーチグループリーダー
李 永俊(経済システム講座 助教授)
第1リサーチグループ:計量分析グループ
大橋忠宏(情報行動講座 助教授)
後藤 寛(情報行動講座 助教授)
第2リサーチグループ:企業調査グループ
佐々木純一郎(大学院地域社会研究科 教授)
森 樹男(ビジネスマネジメント講座 助教授)
第3リサーチグループ:社会調査グループ
紺屋博昭(公共政策講座 助教授)
石黒 格(情報行動講座 助教授)

教育学部附属国際音楽センター

TEL:0172-39-3379 FAX:0172-39-3379 E-mail:timada@cc.hirosaki-u.ac.jp



教育学部音楽教育講座では、ここ数年、海外からの研究者、演奏家を招き、シンポジウムやコンサートを開催して来ましたが、それらの活動の集大成として、2004年には弘前大学国際音楽フェスティバルを開催することが出来ました。これらの蓄積が昨年、教育学部附属国際音楽センター発足に繋がったわけです。

センターは、浅野清(代表)、今田匡彦(副代表)と和田美亀雄、杉原かおりの4名で構成されており、オーストリア共和国外務省協賛によるコンサートとシンポジウム(10月)センターメンバーによるMostly Concertシリーズ(11月及び12月)などを既に開催しています。また、今年11月には日本サウンドスケ-

プ協会国際委員会(JASE)との共催により、WFAE世界音響生態学会をホストすることが決定しています。

尚、今後の詳しい活動につきましては、以下のサイトを参照下さい。

<http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/himc/index.php>

音楽教育講座 教授 浅野 清
音楽教育講座 助教授 今田匡彦
音楽教育講座 教授 和田美亀雄
音楽教育講座 助教授 杉原かおり

教育学部附属経済教育センター

TEL:0172-39-3352 FAX:0172-39-3352 E-mail:inose@cc.hirosaki-u.ac.jp



本センターは、初等・中等教育における金融教育(パーソナルファイナンス)年金教育、金銭教育、消費者教育、企業家教育などの経済教育がかかえる諸課題について調査・分析・開発・研修・普及・政策提言を行うとともに、弘前大学ならびに教育学部の教育研究の進展と地域における経済教育振興に資することを目的として設立されました。2005年度は、次の様な活動をしました。

- (1)研究成果の発信
2005年度の経済教育学会全国研究大会を、センターが主体となって招致・運営し、成果を発表しました。
- (2)共同研究開発
(財)消費者教育支援センター、(財)日本経済教育センターと連携して、金融経済教育の二つのプログラムを開発しました。前者とは、「どんぐりマーケット」を、後者とは「牛丼屋シミュレーション」を開発しました。
- (3)地域との連携
4つのワークショップを開催しました。弘前市小学校社会科研究会

(2005年11月、北小学校)青森市中学校社会科研究会(2006年1月、ラ・プラス青い森)北社会科研究会(2006年1月、北文化会館)八戸市中学校社会科研究会(2006年2月、下長公民館)で、「金融経済教育の課題」の講演と教材の模擬授業をしました。

(4)国際交流
グラスゴー大学のキャシー・フェイガン上級講師の講演(英国のパーソナルファイナンス教育とカリキュラム開発の現状)

社会科教育講座 教授 猪瀬武則
社会科教育講座 講師 山田秀則
家政教育講座 教授 日景弥生
附属中学校 教諭 竹内誠司
附属中学校 教諭 蒔苗尚文
附属中学校 教諭 佐藤耕人
附属中学校 教諭 須藤 崇
附属小学校 教諭 平川公明
附属小学校 教諭 秋田 真
附属小学校 教諭 須藤早苗

教育学部附属特別支援教育センター

TEL:0172-39-3451 FAX:0172-39-3451 E-mail:fando@cc.hirosaki-u.ac.jp



昨年6月、教育学部に特別支援教育センターが設置されました。これは、従来の特別支援教育相談室を発展させたものです。「特別支援教育」とは、これまでの「特殊教育」(盲・聾・養護学校や小・中学校にある特殊学級で行われる教育のこと)に、小・中学校等の普通クラスに在籍している軽度発達障害児への教育支援を加えたものをさします。軽度発達障害児とは知的な遅れがなく、読み・書きなど特定の部分の能力に障害がある子どものことをさします。文科省の調査では、学齢児のおよそ6.3%、一クラスに一人、二人はいるとされています。特別支援教育センターの役割の第一は軽度発達障害児とその

保護者への教育相談、第二は小・中学校や盲・聾・養護学校教員の研修機会の提供です。相談件数は年間250件を超える程あり、昨年度は研修会を2回開催しました。センターは、大学の研究室と附属養護学校が中心になって運営しています。

学校教育講座	教授	安藤房治
学校教育講座	教授	松本敏治
附属養護学校	校長	面澤和子
附属養護学校	副校長	高橋行吉
附属養護学校	教頭	佐藤全克
附属養護学校	教諭	中村 修

医学部附属がん診療・研究センター

TEL:(阿部)0172-39-5102/5103 FAX:0172-33-5627 E-mail:radio-jm@med.hirosaki-u.ac.jp



平成17年度特別教育研究経費でセンターの設置が認められました。医学部と附属病院におけるがん診療と研究体制を有機的にまとめ、がん診療の向上、先端化、臨床研究の充実、人材の教育と育成を図り、臨床と基礎が結びついた研究の支援、研究力の充実と国際的競争力を高めることを行います。これにより地域のがん診療研究の拠点として位置づけが計られると考えます。平成17年度の活動をまとめました。18年度も同様に活動します。1)平成17年10月30日、大学祭の公開シンポジウム「癌になったらどうする～附属病院からのメッセージ」を主催しました。2)平成17年11月10、11日、弘前国際フォーラム「がん予防と治療の新たな標的」を支援しました。3)平成17年11月25日、第142回弘前医学例会で公開シン

ポジウム「弘前大学附属病院におけるがん診療の現状と将来展望」を協力しました。

- 平成17年度弘前大学学長指定重点研究によりバイオラッド社Bio-Plex(サイトカインアッセイ)を購入し共同利用します。
- がん診療の重点項目として「院内がん登録」事業の支援と「臨床研究推進チーム」「緩和医療チーム」「化学療法チーム」を提案し、実現に向けた活動を行う予定です。

外科学第二講座	教授・佐々木睦男
生化学第二講座	教授・土田成紀
放射線医学講座	教授・阿部由直

医学部附属循環器病研究センター

TEL:0172-39-5022 FAX:0172-39-5023 E-mail:pharmaco@cc.hirosaki-u.ac.jp



高齢化社会を迎えつつある日本において、血管の老化が虚血性心疾患、脳血管障害さらには代謝性疾患や腎機能障害など、さまざまな疾患の危険因子となってきています。したがって国民のQOLの向上にはその予防・治療に関する研究が不可欠です。医学部としてその現状に対応するためには循環器疾患に精通した医師・医学研究者を育成することが急務といえます。そこで循環器の生理学・分子生物学・薬理学・臨床病態学を担当する基礎・臨床講座が一体となって分子から生体までを網羅する一貫した教育・研究を展開する必要があります。そのために基礎系2講座・部門と臨床系2講座が協力して、当研究センターは設立されました。すでに循環器の異所性石灰化の研究プロ

ジェクトがスタートしています。また設立直後に弘前大学学長指定重点研究の支援を受けています。

薬理学講座	教授・元村 成
	助教授・古川賢一、助手・瀬谷和彦
内科学第二講座	教授・奥村 謙、助教授・長内智宏
外科学第一講座	教授・福田幾夫
	助教授・鈴木保之、講師・福井康三
附属脳神経血管病態研究施設・脳血管病態部門	教授・佐藤 敬
	講師・吉田秀見、助手・今泉忠淳

医学部附属社会医学センター

TEL:0172-39-5041 FAX:0172-39-5038 E-mail:eisei@cc.hirosaki-u.ac.jp



岩木地区健康増進プロジェクトの風景(聞き取りと血圧測定)

社会医学センターは、医学部(大学病院の斜め後ろ)基礎校舎6階の社会医学講座の中にあります。このセンターは、「社会医学」(「社会」と「医学」に関する分野で、主に健康増進・予防医学的なもの)に関心のある多くの方々お気軽に集まれる広場です。弘前大学の学生・教職員の皆さん、弘前大学外の自治体・職域・地域の皆さん、お気軽にお集まり下さい。興味は、勉強(教育)研究、社会活動など何でも結構です。たとえば、当センターでは、平成17年度から、弘前市岩木地区で10年計画の「岩木地区健康増進プロジェクト、2005」というプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは同地区住民の総合的健康増進を図る(研究・教育・社会貢献)活動です。内外約

20の研究・教育施設の共同プロジェクトです。多くのスタッフが集まり多面的にアプローチすることで良質の教育・研究と社会貢献が可能になり、横の連帯感が生まれます。興味のある方はご参加下さい。

社会医学講座	教授・中略重之
	助教授・梅田 孝
	助手・高橋一平、菅原典夫、松坂方士
	大学院生・嶋谷泉、八重垣誠
	スタッフ・竹島千秋、福土めぐみ、円山紗矢

医学部附属移植医療研究センター

TEL:0172-39-5091 FAX:0172-5092 E-mail:urology@cc.hirosaki-u.ac.jp



肝移植、腎移植、骨髄移植などの移植医療は、高い診療技術を備えた様々な領域のスタッフが協力し合いながら目標を達成する高度なチーム医療です。北東北の移植医療において本学が果たすべき責務は大きく、このチーム医療を効率よく円滑に運営して地域医療に貢献するには、各講座・診療科間の連携を強化するとともに、移植医療に共通した教育・研究・診療を行うTransplant Unitを形成することが必要です。

本センターは細菌学、生化学第一、内科学第二、外科学第二、泌尿器科学、麻酔科学、小児科学の各講座、薬剤部、保健学科看護学専攻を構成メンバーとして設立されました。本研究センターから提案した「ABO血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究」は学長指定重点研究計画に採択されております。ABO血液型不適合移植は日本の移植医療の最大の問題点であるドナー不足への有力なアプローチ法です。血液型抗原が糖鎖であることに着目した本学らしい研究テーマであり、その成果が期待されます。

本センターの設置により移植医療の研究が充実し、地域医療に大きく貢献することはもちろん、チーム医療の重要な一端を担うコメディカルや次世代の医療の担い手である学生の教育にも大きな役割を果たすものと期待されます。

泌尿器科学講座	教授・大山 力、講師・大和 隆、古家琢也
	助手・米山高弘、畠山真吾
細菌学講座	教授・中根明夫
生化学第一講座	教授・高垣啓一
内科学第二講座	教授・奥村 謙、講師・中村典雄
	大学院生・村上礼一
外科学第二講座	教授・佐々木睦男、助教授・袴田健一
	講師・鳴海俊治、助手・豊木嘉一、梅原 豊
麻酔科学講座	教授・廣田和美、助手・榎方哲也
小児科学講座	教授・伊藤悦朗、講師・土岐 力
総合診療部	講師・大沢 弘
薬剤部	主任・新岡武典
保健学科	
成人看護学講座	教授・山辺英彰、講師・川崎くみ子

トリノ冬季オリンピックに出場



トリノオリンピック、カーリング競技「チーム青森」の一員として活躍された人文学部3年の目黒萌絵さんが帰国後の3月3日、青森県カーリング協会の對馬忠男会長、阿部晋也監督とともに遠藤学長へオリンピックの報告をしました。また3月13日には、その功績を讃え遠藤学長から学長顕彰が送られ、その席上で目黒さんから次のような挨拶がありました。

私は、小学3年から両親の影響でカーリングをはじめ、平成15年に弘前大学に入学してから今まで3年間カーリングを続けながら学生として勉強してきました。大学に入学してからは、冬はカーリング漬けでした。学長はじめ教員の皆様には本当に温かいご理解とご支援をいただき、また出場が決まった時も自分の事のように喜んでくださった弘前大学の皆さんや友達、たくさんの人達に支えられてオリンピックに出場でき、その場にいられる事が本当に幸せに感じられた14日間でした。開会式や閉会式では、地元イタリアの芸術的な面を見られ、その場にいられる事が夢のようでした。

前回のソルトレイク大会に出場した2人（小野寺選手、林選手）には、「オリンピックは出るだけじゃ意味が無い。」と、チームを結成した当時から言われ、出場が決まった時も喜ぶ間も無くすぐに予選突破を目指しオリンピックに臨みました。予選を突破するためには、10チーム中、6勝するのが最低の条件で、初戦のロシア戦はどうしても落とさたくない一戦でしたが、敗れてしまった事がとても悔しかったです。試合の合間を縫って、友達をはじめ会場

に駆けつけてくれたたくさんの方々の応援団の人達とコンタクトを取れる時間を貰い、その時にみんな泣いて励ましてくれて、「やるしかないんだ」と気持ちを持ち上げる事が出来ました。そして、カナダ戦ではスキップの小野寺さんがいいショットで引っ張ってくれた事も

あり、大きな勝利をおさめる事が出来ました。予選突破がかかっていた最後のスイス戦は、「最後の試合には絶対勝って、5勝して日本に帰ろうね。」と、チームで意気込んで臨んだ試合で、競技中も「これで終わりたくない」という気持ちが強い試合でした。最後はもう一歩届かず、敗れてしまいましたが、後半追い上げられた事は嬉しかったです。スイス戦の後、自分の力を出し切れなかったと悔やむ面が多かったです。本当に皆さんの力に支えられた面もあり、勉強になったところがたくさんある試

合で、今までたくさんいろんな試合をしてきた中でも一番充実した9試合だったと思います。

今回のオリンピックを通して、日本中の皆さんがカーリングに興味を持って応援してくださっていた事を知り、カーリングをやっている自分に自信を持てるようになりました。これまでマイナースポーツとして軽く見られて悔しい思いをしていたので、そういう点でもとても嬉しいです。また、弘大に入学して、いい友達といい先生に巡り会えて本当に良かったと思っています。

これまでソルトレイクに出場した2人に引っ張られていた部分が多く、ついて行く側だったのですが、これからはもっと経験を生かして積極的に引っ張っていきけるよう、今までとは違った形でチームに関わっていきたいです。そして、この春からは大学に戻り学業共に頑張っていきたいです。



合同企業説明会

2月13日(月)、本学3年生を対象とした、学生就職支援センター主催の合同企業説明会が青森県武道館(弘前市)で行われました。当日は雪解けの雨が降る中、全国各地から185社の企業に集まっていたいただき、学生631名が参加して、ブース形式で学生と企業の採用担当者が直接面談をしました。

各企業のブースでは、パンフレットやパソコンを使用して学生に業務の内容を説明する姿や名刺交換をする姿が見られました。

リクルートスーツに身を包んだ学生達は、緊張した面持ちで、目当ての企業に並んで順番を待つ者、積極的に質問をする者、企業の説明に耳を傾けながら熱心にメモをとる者、どの企業を訪問していいか迷っている姿などが見られました。

当日は1、2年生がアルバイトとして会場の設営、受付、後片付けに参加してしまし



た。その中には、スーツ姿で先輩と一緒に企業のブースに座り、会社説明を横で聴講させてもらっている学生もいました。その姿を見て、学生就職支援センターの小磯助教は「生きたキャリア教育ですね」と話していました。

学生就職支援センター主催東京企業見学会

3月3日、学生就職支援センター主催の東京企業見学会が行われ、21世紀教育科目「仕事と私-仕事を通して考える-」の受講者のうち、企業見学を希望する学生19名が参加しました。東京企業見学会は、就職活動を目前に控えた学部2年生を対象に、授業で感じたことや得たことを企業見学や諸先輩と実際に話をすることで更に深め、広く社会を見る機会として職業意識の涵養を目的としています。

今回訪問した企業は、午前中は、月島機械株式会社、午後はNHK(日本放送協会)の2社です。

当日は朝8時15分に弘前大学東京事務所



月島機械(株)の見学

平成18年度入学試験 学外試験場でも実施



平成18年度入学試験は、一般選抜前期日程を2月25、26日、後期日程を3月12日に実施しました。

一部の学部では、前期日程に八戸試験場、札幌試験場を設け、受験生の利便性を図りました。

各学部ごとの志願倍率は次の通りです。

平成18年度入学試験・志願倍率

学部	合格者数	倍率(前期)	倍率(後期)	青森県合格者%
人文学部	309	2.5	9.4	149(48.2)
教育学部	198	2.6	9.0	81(40.9)
医学部医学科	55	6.2	12.0	8(14.5)
医学部保健学科	169	4.1	10.1	60(35.5)
理工学部	282	2.1	5.9	107(37.9)
農学生命科学部	172	2.3	10.4	51(29.7)

(推薦入学等の特別選抜を除きます)

所(東京駅八重洲南口前、住友生命ビル5階)に集合し、最初に東京事務所内を見学しました。

月島機械株式会社は、主力製品として大型の濾過器、分離器、乾燥機などを生産し、その品質の高さから日本国内はもとより中国、韓国、台湾へも輸出しており、山田和彦社長は、本学人文学部経済学科を昭和44年に卒業された経済学科の1期生です。山田社長からは、学ぶ姿勢、感謝することの大切さなど、卒業生として本学学生へ向けた温かいメッセージをいただきました。

その後、会社の概要説明、主力製品の説明、工場の説明などを受け、実際に製品がつくられている工場(市川事業所内、月島テクノマシナリー株式会社)を特別に見学させていただきました。参加した学生からは、作られている製品の品質の高さ、製品の大きさなどに驚きの声がありました。

午後は東京都渋谷区にあるNHKを見学しました。NHKでは実際に番組収録中のスタジオ、副調整室の中に入っただけの見学、NHKスタジオパーク見学、NHKの心臓部といえる送出コントロールルーム(TOC)の見学が行われました。各見学場所では、番組作りの目的、番組制作の仕組み、機器の説明などを受け、NHKで活躍されている弘



NHKの見学

大OBの方にも同行していただきました。見学のあとは「ふれあいミーティング」に参加し、NHKの公共放送としての役割や取り組み、社員としての意識や視聴者としての意見交換の他、弘大OBから後輩へのアドバイス、NHK採用試験時の経験談、就職に対する心構えなどを聞くことができました。学生達はNHKが開発している最先端の技術に驚き、また先輩の意見から、地域の人々と関わって番組作りをする姿勢に放送業界も考えて見たいとの意見がありました。

企業見学終了後は、ホテルグランドヒル市ヶ谷へ移動し、遠藤学長らと交えて東京同窓会会員との懇親会が行われました。

平成17年度弘前大学 学位記授与式を挙

平成17年度弘前大学学位記授与式は、3月23日午前10時から弘前市民会館において厳かに行われました。始めに、遠藤学長から学位記が各学部の代表の学生に手渡され、引き続き学長告示、弘前大学学生歌の演奏が行われ、最後に「ぼたの光」を出席者全員で斉唱し、式典を滞りなく終えました。

大学院学位記授与式は、同日午後1時から創立50周年記念会館みちのくホールで、教育学部附属学校園の卒業式は、小学校は、3月18日、中学校が3月14日、養護学校が3月14日、幼稚園が3月15日に各学校園においてそれぞれ執り行われました。

[卒業生から一言]

人文学部 北中奈津子
「留年したけど、両親、先生方、友達などまわりで支えて下さった方のおかげで卒業することができました。ありがたく思っています。」

弘前大学入学式を挙

平成18年度入学式が4月4日弘前市民会館において執り行われました。遠藤学長の告示では自信と誇りの拠り所となる本学の先輩の方々の活躍の一端にふれ、「卒業時には幅広い教養と優れた専門の基礎を身につけ、健康で人間性豊かな社会人として巣立よう努力することを希望します」との言葉があり、新入生は気持ちを新たにしていました。

また、今年度からは入学式を2部構成で開催し、入学式会場へ保護者も入場出来るようになりました。市民会館前では記念撮影をする保護者や、サークルへ勧誘する在学生などが集まり、いつもの賑やかな光景が見られました。入学生代表として第2部の学生宣誓をした医学部の追切裕江さんは、「学部を超えて友達を作りたい。将来は医者になることを目指して、中身の濃い勉強をしたい」と抱負を語っていました。

第5回弘前大学総合文化祭 ～テーマは『WA!!』～



自転車で発電した電気で船を作る小学生（理工学部）

第5回弘前大学総合文化祭が10月28日（金）から30日（日）の3日間にわたり、文京町キャンパスで開催されました。

今年のテーマ『WA!!』は、学生、教職員、地域の皆様がみんなで楽しめる祭り、参加者全員でひとつの「輪」をつくり、「和」気あいあいと「話」をして、心から「笑」って元気になれる祭りを表します。学生主体の「第56回弘大祭」と学部・教職員の「第5回学術文

化祭」が一体となり弘前大学挙げての開催となりました。

期間中は、昨年同様、学生主体の模擬店や先端の学術研究を紹介する「知の創造」プログラム、地域の方々も参加できる「サインエンスへの招待、楽しい科学」よさこいソーラン踊りによる「よさこい弘大」など多彩な催しが開かれ、新たに鱒ヶ沢町との産学官連携による「鱒ヶ沢町物産フェア」、ジャーナリストの宮崎 緑氏を迎えての「エネルギーシンポジウムin弘前大学」、弘前市出身の世界的アーティスト奈良美智氏による「奈良美智レクチャー@弘大祭『AtoZ』」には多くの地域の皆様が訪れ大盛況でした。

昨年同様大勢の地域の皆様がキャンパスを訪れ、ファイナルフェスティバルでの花火の打ち上げで無事終了しました。学生、教職員、地域住民が一体となった本学の更なる飛躍が感じられる3日間となりました。

JOB FRIEND CIRCLE in AOMORI ～ワカモノのチカラ、アオモリのチカラ～

若年者就労問題は世代を越え、またあらゆる立場の者みんなで考えなければ解決できない問題です。しかしこのようなコミュニケーションが取れる組織というのは滅多にあるものではありません。そこでこの組織をつくろうと、厚生労働省の推進する「若者の人間力を高めるための国民運動」地域イベント「JOB FRIEND CIRCLE in AOMORI～ワカモノのチカラ、アオモリのチカラ～」を企画しました。

当日は弘前市土手町商店街内4箇所イベントスペースにて協力団体の皆様の活動紹介、若手アーティストの作品展、仕事について考えるトークイベント等を行いました。また貴重な営業時間中にもかかわらず、ご協力店舗内にて喫茶店スタッフ、フラワーコーディネーターなどの仕事体験の機会を提供していただきました。

今回のイベントは、青森県内で活躍され



ジョブトーク「就きたい仕事、どうやって見つけたの？」



華やかなフラワーアレンジメントの裏側スタッフ体験

ている合計16団体のご協力と弘前大学生のボランティアにより、初の試みで氷点下の中での開催であったにもかかわらず多くの方にお越しいただき無事にやり遂げることが出来ました。ご協力していただきまして皆様には本当に感謝しております。

2月19日に行われた、若者の人間力を高めるための国民運動「若者サミットin京都」内においても今回のイベントは高評価をいただき、来年度の国民運動アクションプランを作成する際のモデルとなっています。

今回できたネットワークを最大限に生かし、若者の仕事について考える意識や若者自らの可能性を引き出すため、今後も地域を紹介し地域に住む社会人と学生が直接話せる仕掛け作りを考えていきたいです。青森雇用・社会問題研究所（人文学部社会法ゼミナール）

鱒ヶ沢町と地域連携事業に関する協定を締結

本学では、鱒ヶ沢町と包括的な連携のもとに産業振興、文化の育成・発展、まちづくり、人材育成、学術など多方面での協力をするため、10月6日に鱒ヶ沢町役場にて協定を締結しました。

調印にあたり、遠藤学長から「法人化後大学をあげて取り組んできた鱒ヶ沢町との地域連携事業も軌道に乗り実現されていること、学術的なシーズの蓄積と地域社会への貢献で地域に密着した大学づくりを進め、地域との連携をさらに推進していきたい」、長谷川町長から「弘前大学とより強固な関係を築き、学官連携事業のモデル地区となるよう町の自然活用と地域資源の掘り起こしをしたい」とそれぞれ挨拶がありました。

今後、同地域連携事業では、西海岸衛生処理組合で発生している污泥を有機肥料として活用する共同研究等が実施されます。



固く握手を交わす遠藤学長（左）と長谷川町長

平成17年度学長顕彰

「学長顕彰」は、本学の名誉を高めた顕著な業績、活躍をした者又は団体、学長が顕彰することを適当と認められた者又は団体を顕彰する制度で、平成16年12月6日の役員会で決定されました。

平成17年度の表彰者（団体）は次のとおりです。

学祭本部実行委員会

学生及び教職員の連帯を深めるとともに、地域との文化交流への推進に貢献

目黒萌絵（人文学部・3年）

トリノ冬季オリンピック「カーリング女子」へ出場し、第7位入賞

工藤啓一（農学生命科学部・助教授）
日本酒「弘前大学」を発案・開発し、弘前大学ブランドの普及に貢献

平成17年度 弘前大学学生表彰一覧

【団体】

課外活動で特に顕著な功績があった学生等
体育系課外活動

1	弓道部(女子)	・第35回東北地区秋季女子学生弓道大会 部リーグ戦優勝 ・第45回東北地区秋季女子学生弓道大会優勝 ・第29回全日本学生弓道女子王座決定戦準優勝
2	競技ダンス部	・第70回全東北学生競技ダンス選手権大会団体戦ワルツ第1位 ・NPO法人日本プロフェッショナルダンス競技連盟日本競技ダンス選手権大会アマ・選手権ラテン・アメリカン第3位
3	医学部空手道部	・第48回東日本医科学生総合体育大会空手道競技男子総合優勝 ・男子団体形競技優勝 ・男子団体組手競技準優勝 ・第48回東日本医科学生総合体育大会空手道競技女子団体組手第3位
4	空手道部	・第4回東北大学空手道選手権大会男子団体組手第2位 ・第56回東北地区大学総合体育大会男子団体組手第2位

文化系課外活動

1	混声合唱団	・第58回全日本合唱コンクール 東北支部大会大学A部門金賞
2	ロボティクス研究会	・100チーム近い参加大学の中から予選を突破しNHK大学ロボコン2005全国大会に出場し、特別賞を受賞

サークルの活性化に顕著な功績があった学生団体

1	ひまわりサークル	・結成10年目を迎え、活動の場が病院から地域へ、対象者も小児から高齢者・障害者へと拡大し、様々なボランティア活動を通じ社会に貢献している。
---	----------	---

【個人】

研究活動で特に顕著な成果を挙げた学生等

1	近藤 潤	医・保健4年	・英文論文を国際的専門誌 International Journal of Molecular Medicine に掲載予定
2	赤岡 亮	理工研究科2年	・平成17年度電気関係学会東北支部連合大会において発表した論文が IEEE SENDAI SECTION から評価され、Student Award The Best Paper Prize を授賞

課外活動で特に顕著な功績があった学生等

体育系課外活動

1	島村 礼央奈	人文3年	・第35回東北地区秋季女子学生弓道大会 部リーグ戦優勝
2	菊池 直紀	人文4年	・第45回東北地区秋季学生弓道大会 部リーグ戦優勝
3	菅原 康祐	教育1年	・北東北大学野球連盟2005年秋季リーグ戦(2部)ベストナイン賞
4	小渡 亮介	医・医2年	・第27回全国国公立大学空手道選手権大会男子個人形優勝 ・第48回東日本医科学生総合体育大会空手道競技部門男子個人形優勝 ・第56回東北地区大学総合体育大会空手道競技部門男子個人形第1位
5	佐々木 英嗣	医・医4年	・第48回東日本医科学生総合体育大会柔道個人競技無差別級優勝
6	川野 雄一朗	医・医4年	・第48回東日本医科学生総合体育大会バドミントン競技男子シングルス第3位 ・第35回北日本医科系学生バドミントン選手権大会男子ダブルス優勝
7	田中 孝幸	医・保健4年	・第35回北日本医科系学生バドミントン選手権大会男子ダブルス優勝
8	藤田 沙耶花	医・保健4年	・東北総合体育大会ソフトボール成年女子の部で青森県チームの選手として出場し、優勝

文化系課外活動

1	山本 季奈	人文4年	・第4回女性と仕事の未来館作文募集で最優秀賞にあたる「女性と仕事の未来館館長賞」を受賞
2	古川 奈津子	教育3年	・第20回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレクあおもり2007」マスコットデザイン全国応募で、616点中上位3点に選ばれ、優秀賞を受賞



空手道部



来年度で創部50周年を迎える伝統と歴史ある部です。平成17年度は全国国公立大学空手道選手権大会男子個人形優勝、東北大学総体男子団体戦準優勝という成績を残しました。

空手道にはいくつも流派があるのですが、私たちは社団法人日本空手協会の松濤館

流空手を学んでいます。協会系はスポーツ競技というよりは一本勝負の伝統武道の特色が強いられているとされています。空手の魅力についてのとらえ方は人それぞれだと思いますが、私は目の前の相手と対峙したときに感じる全身を貫く緊張感にあると思います。またわが空手部は東北でも強豪なので、高いレベルの空手が経験でき、その中で達成感を感じることもできます。夏休みには1週間の合宿があります。恒例の千本尽き、千本蹴り、座禅を経て、みなたくましく成長していきます。

現在、部員は約40人。全体的な男女の比率は5:5ですが、1年、2年生では女子のほうが多数在籍しています。経験者よりも大学から始めた人のほうが圧倒的に多く、同じスタートラインから経験を積んでいくことになります。1年生のときには基本を教わり、本格的な試合に出場するのは2年生あたりから。部内には、大学から始めても経験者よりも強くなった人がたくさんいます。新入生には多くの入部を呼びかけたいと思います。(空手道部新主将 医学部3年小渡亮介)

voice

はじめまして、サンディエゴからきたマーモレホで

はじめまして。私の名前はピクター マーモレホです。去年の10月に米国カリフォルニア州のサンディエゴ州立大学からきました。私の国は異なった人々、文化、および生活様式で満ちています。そして私の都市サンディエゴは「アメリカの最も良い都市」として知られていて、常に暖かく、容易に行くことができ、みんなそこで楽しい時を過ごしたいと思うようなところです。また「浜」でもよく知られていて、多くの人々が夏の間サーフしたりしてそこで時間を過ごしています。世界中からの日本、中国、メキシコのような他の文化や、フィリピン、ベトナム、イタリヤ等の人々の食や生活様式に出会うことができます。もしみなさんがサンディエゴへ行ったら、世界的に有名な動物園、バルボア公園、常にあるさまざまな催し物や繁華街で楽しんでください。



このようなさまざまな文化の中で、私は最も興味深いと感じた日本文化に出会いました。私は1年間弘前大学で勉強します。先生方はみんな興味深い人々です。とても熱心に喜んで教えてくれます。私はいま知ることが楽しく、素晴らしい先生方に出会えたことがうれしいです。また、私が弘前大学に来て意外だったことは多くの国際的な学生に会ったことです。ここに来る前、私は多くの留学生に会うことは考えていませんでした。でも、弘前大学は非常に多様な国際的な学生がたくさんいます。フランス、ブラジル、中国、タイ、ルーマニア、韓国、ドイツなどからの友人に会いました。そして私も彼らも多くの文化にすぐに反応し、同じ開いた心を持っていることを知りました。

私が弘前に着いたときに、私が気づいた最初のことは天候でした。それはサンディエゴの通常天候より冷たいのでした。そして2番目に気づいたことはまわりの人々がみんな私を凝視することでした。でも少し経って、ちょっと話してみると、弘前の人々がとても素晴らしく、暖かい歓迎を示していることに気づきました。彼らは外国人に対して好奇心が強いので凝視しているようです。それがわかって、私は弘前がとても快適な場所になると思いました。そして多くの人と出会い、多くの友人ができました。半年経って弘前のいろいろな祭や行事にも参加して、私は心から、弘前が帰国した後もまたいつでも戻ってきたいと思う場所のひとつとなったことを確信しています。

全国に先駆け アスベスト関連疾患、中皮腫の 治療法開発に取り組む。

住宅建材や自動車の緩衝材など、私たちの身近な製品に使用されてきたアスベスト（石綿）による健康被害が、大きな社会問題になっています。弘前大学では昨年夏、アスベスト暴露に関連した中皮腫に対する治療法の開発を目指し、医学部教授・助教による特別プロジェクトを立ち上げました。この研究は独創的な特色を持ち、学長指定緊急重点研究にも指定されました。

社会の要請に素早く対応

アスベスト（石綿）を使用した石綿管や外壁材・屋根材などの住宅建材を製造している大手機械メーカーの工場（兵庫県尼崎市）で、多数の従業員や周辺住民がアスベストによる悪性中皮腫や肺がんで死亡していることが、マスコミで大きく報道されたのが2005年6月のこと。アスベスト問題に対する社会的関心は一気に高まり、アスベスト暴露に関連した中皮腫に対する治療法がいまだに確立されていないことが伝わることで、多くの人々が衝撃を受けました。



鬼島 宏(きじま・ひろし)

〔略歴〕 医学部医学科病理学第2講座教授・医学博士 / 1958年12月東京都生まれ。84年新潟大学医学部医学科卒業、88年同大学院医学研究科博士課程修了。88年東海大学医学部病理学教室助手、93～95年米国カリフォルニア州シティ・オブ・ホー国立研究所客員研究員、96～97年大和市立病院診療部出向、03年東海大学医学部基盤診療学系病理診断学部門助教、04年現教授。また、97年より通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所客員研究員（現独立行政法人産業技術総合研究所共同研究員）を併任。

〔専門分野・研究概要〕 病理学、病理診断学、消化器病理学 機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御および細胞機能特性の解明。ヒト腫瘍の増殖抑制と転移制御。

弘前大学ではその夏、ただちに「アスベスト関連疾患、中皮腫の新たな治療に向けた統合的展開」を研究課題としたプロジェクトを立ち上げました。チームは医学部の鬼島宏教授を代表とした合計10名。社会的要請に素早く対応するかたちになりました。

アスベストは、岩石から採取される天然鉱物で繊維状をしています。その太さは髪の毛の5000分の1程度。加工しやすく耐火性、耐熱性、絶縁性、強度性などが高いことからさまざまな製品に用いられてきました。鬼島教授は「微細な繊維状のために加工などの時に飛び散り、それが空気中から肺の奥まで入り込みます。鉱物のために代謝されず、長期間体内に残存して細胞に刺激を与えつづけ、その結果、三十年から四十年の潜伏期間を経て悪性の中皮腫を引き起こします」と、発症のメカニズムを教えてくださいました。中皮腫（正式には、悪性中皮腫）とは肺や心臓を包む胸膜や腹膜などの中皮という膜にできるがんの一種。アスベスト関連疾患には、中皮腫のほかに石綿肺（じん肺の一種）、肺がん、胸膜炎、びまん性胸膜肥厚などがありますが、中皮腫はアスベストにさらされることがなければ発症しないと考えられるほど、特異な関連性があるといわれているそうです。

研究プロジェクトメンバー

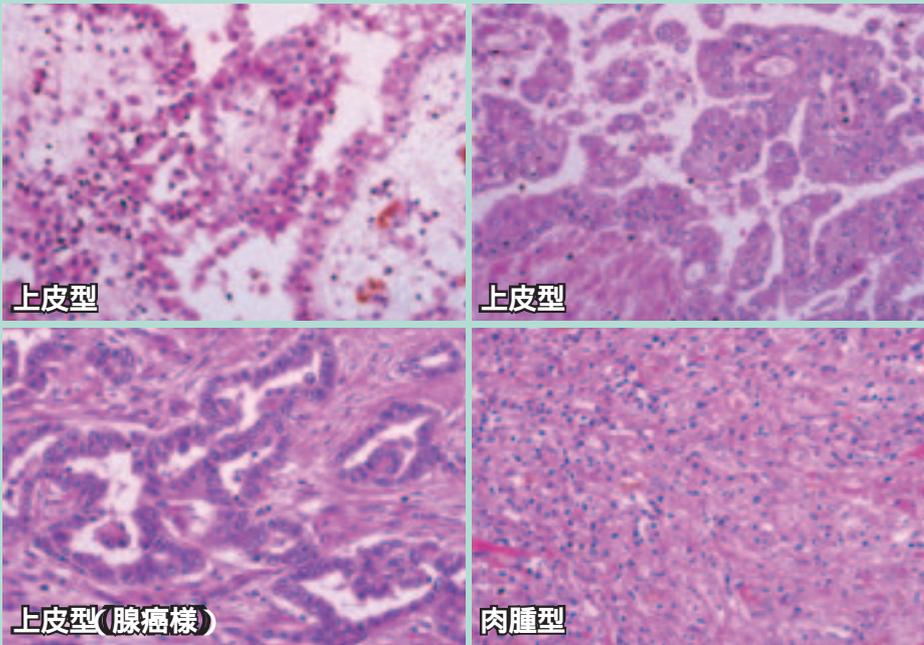
氏名	所属部局・職	専門	役割分担
鬼島 宏	医学部教授	病理学	研究総括・病理形態学的解析
高垣 啓一	医学部教授	生化学	中皮腫のヒアルロン酸分析・合成制御
佐々木 睦男	医学部教授	外科学	中皮腫の増殖制御・治療
吉原 秀一	医学部助教	外科学	中皮腫のヒアルロン酸制御・腫瘍制御
福田 幾夫	医学部教授	外科学	中皮腫の臨床解析・治療
佐藤 敬	医学部教授	病態生理学	中皮腫の細胞培養・増殖制御
立石 智則	医学部教授	臨床薬理学	中皮腫の腫瘍マーカー解析
奥村 謙	医学部教授	内科学	アスベスト関連疾患の臨床解析
高梨 信吾	医学部助教	内科学	アスベスト関連疾患の臨床解析
中路 重之	医学部教授	社会医学	アスベスト関連疾患の疫学



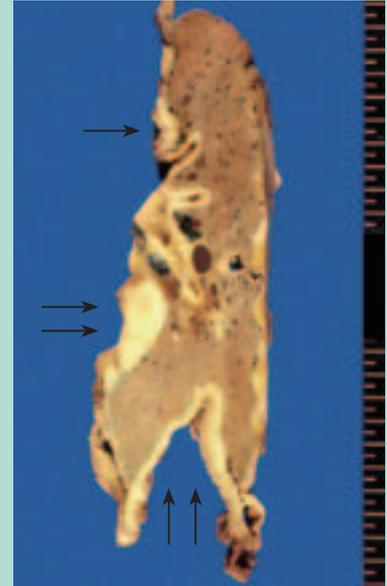
患者さんから採取した組織や培養した組織をロウで固め、それをメスの付いた専用機械で薄くスライスする（写真奥）。スライスしたものはスライドガラスに貼り、色を染めて（写真手前）病理標本が完成し、やっと顕微鏡で見ることができ。一連の作業は間違いの許されない重要な作業で、いまだに機械化されていない

研究の独創性と特色

アスベスト暴露に関連した中皮腫に対する



顕微鏡で見た悪性中皮腫の腫瘍細胞。「休眠療法」が開発されれば、腫瘍細胞の増殖を抑えて、腫瘍の大きさを小さくしてその部分だけを切除することが期待できる。



肺を覆った胸膜の悪性中皮腫。胸膜に沿って全体に広がってしまうので、腫瘍のすべてを切除することは難しい。

る治療法は、前述のとおりいまだに確立されていません。鬼島教授は「地域における暴露の実態も明確になっていませんし、中皮腫の発生機序、増殖の特徴、適切な治療選択の解明も十分とはいえません」と課題は多いと言います。しかし弘前大学のプロジェクトチームは、この困難に挑戦しながら、最終的に全国に先駆けた中皮腫の治療法の開発を目指しています。

鬼島教授によると研究計画は、図1のようなステップで進められていく予定です。初期段階の実態調査は現在も進行中ですが、アスベスト製品の製造工場や周辺被害の数は東北は比較的少ないことが分かってきました。ただし東北の人の中には、冬期間に関東・関西方面などに働きに行き、そこで暴露している人も多いのではないかと想定し、さらに多くのデータ収集に取り組んでいるところです。

弘前大学の研究には、他大学にはない学術的な特色と独創性があるそうです。それは各教授がこれまで積み上げてきた実績に基づいたもので、すでに下地があるために他大学よりも先行したアプローチがされています。そしてその内容には大きく二つのポイントがあるのですが、そのポイントの第1が「ヒト中皮細胞の培養系確立」。鬼島教授は「実際に中皮腫を実験的に培養することが確立されれば、さまざまな研究がやりやすくなり、非腫瘍性・腫瘍性の中皮細胞の特性が把握できることにつながります」と研究の意義を説明します。

プロジェクトで切磋琢磨

続く第2のポイントは「中皮腫が産生するヒアルロン酸に注目し、その機序を解明

しつつ、ヒアルロン酸制御による中皮腫の増殖抑制をおこなう」というもの。鬼島教授はこれについて次のように分かりやすく説明します。

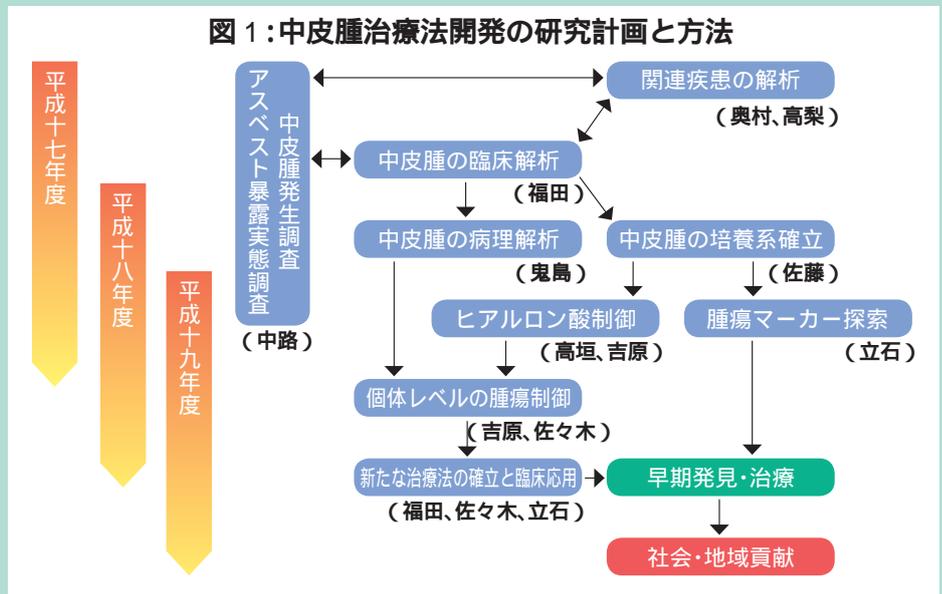
「中皮腫はヒアルロン酸を多く出す腫瘍です。このことから私たちのチームは、ヒアルロン酸が中皮腫の悪性度に関係しているのではないかとこの仮説を立てました。これが証明できれば、ヒアルロン酸を抑えれば中皮腫の悪性度も下がり、増殖を抑制させることができるのではないかと。つまりヒアルロン酸制御を介した腫瘍の『休眠療法』を開発して、腫瘍を小さくしたうえで外科的切除するというユニークなやり方で治療法を確立させたいと考えているのです」

プロジェクトは中皮腫を早期に発見できる新たな腫瘍マーカーの開発などにも取り組んでいて、中皮腫に関する研究が統合的におこなわれているのも特徴といえます。

現在、プロジェクトはまだスタートして半年足らず。しかし地域や大学から大きな期待を寄せられています。鬼島教授は「プロジェクトを組んだ研究は、互いに切磋琢磨(せっさたくま)して刺激を与え合うし、情報も多く入り、目的意識も深まります」とチームを組んでの研究の長所を挙げ、「とにかくステップバイステップで確実に成果を出していくことで期待にこたえていきたい」と決意を語ります。

また鬼島教授は、現在のプロジェクトを将来、必要に応じて大学全体に広げていくことも考えています。「中規模総合大学である弘前大学のメリットを生かせば、さまざまなアプローチでアスベスト問題に取り組んでいくことができます。自分たちの殻だけに閉じこもらずに、広い視野を持って社会貢献、地域貢献を果していきたいと考えています」。

図1：中皮腫治療法開発の研究計画と方法



イベント告知板

【公開講座】(有料)

講座名	日時	会場	募集人数	問い合わせ先
白神山地観察会 春季・里山の春 夏季・大川と大カツラ	5月13日(土) 7月22日(土)	西目屋村	一般 20名 各500円	弘前大学 藤崎農場 0172-75-3026
親子体験学習	5月～10月	金木農場	小学生と親 60名程度 親 3,500円 子 3,000円	弘前大学 金木農場 0173-53-2029
白神山地インストラクター 養成講習会(1)	6月頃	弘前大学	一般 50名 2,000円	弘前大学 藤崎農場 0172-75-3026
弘前大学公開講座 ピアノ指導者のための ブラッシュアップ講座	8月7日、8日 10:00～15:00	弘前大学 教育学部 305講義室	ピアノ指導者及び 学習者一般 4000円	生涯学習教育 研究センター 0172-39-3148
弘前大学教育学部公開講座 「自分づくり」のための道標 (鶴田町教育委員会との共催)	9月上旬予定	鶴田町 公民館 (鶴田町)	一般 40名 3,500円	教育学部 総務グループ (研究協力担当) 0172-39-3325
施設における 寝たきりをなくす - 廃用症候群予防の理論と実践 -	9月15日(金) 9:00～16:00 (予定)	弘前大学 医学部 コミュニケーション センター	看護・介護に 携わる職員 30名 2,500円	医学部医学科 総務グループ 研究支援・会計担当 0172-39-5208
弘前大学公開講座 自然災害に対する 危機管理	9月20日、27日、 10月4日、11日、 18日(水) 18:30～20:30	三沢市 公会堂	一般 40名 5,000円	生涯学習教育 研究センター 0172-39-3148



「弘前に暮らして」

田下 容子

有限会社ビスコム・モバイル
人文学部情報マネジメント課程卒業(2003年3月)



1999年の春に北海道から弘前にきて、今年で8年目になります。

大学生生活は、高校までとは異なる授業の仕組みやアパート暮らしなど初めてのことばかりで、それがとても新鮮で充実した毎日でした。なかでも軟式野球部のマネージャーとして経験したたくさんの出来事と、大学生活を通して大切な人たちと出会えたこと。これらは地元静内町から飛び出して手に入れた、かけがえのない宝物だと思います。

就職について本格的に考え出したのは3年生になってからでした。学内で開かれたガイダンスに出席し先輩の経験談を聞いたり、就活サイトに登録してみたり、自己分析を行ってみたり、といったことから始めました。一番自分自身と向き合いつらかった時期でしたが、必要なことだったと思います。3年生の冬に所属ゼミの教授から、弘前にITベンチャー企業が起業するのでアルバイトを募集するという話を聞き、この会社に就職したいという直感から、他のゼミ生と共に雇って頂きました。アルバイトをしながら会社の雰囲気などを体感することでその思いは固まりましたが、その時期にしか経験できないことなので、仙台での合同説明会など一通りの就職活動は行いました。秋頃にアルバイト先であった有限会社ビスコム・モバイルに採用していただきました。

(有)ビスコム・モバイルは、2002年2月に起業した若い会社です。私の出身学部である人文学部ホームページなどのWEB制作・更新や、弘前市の地域情報統合配信システムRing-O Net運営、ねぶたの位置情報配信などを行うねぶたまつりサポートサイト「ねぶたがり屋」など、さまざまな形で弘前に密着したお仕事をさせて頂いております。私は現在、主に弘前大学担当として働いています。

学生のときはまた違った視点から見る弘前は、懐かしさと同時に新鮮さもあります。自分の学生生活は本当にたくさんの方々を支えられていたことを改めて実感しています。

少人数でスタートしたベンチャー企業なので、大企業のように研修制度が整っていないわけではありません。営業はもちろんのこと、システム構築やホームページ制作に関わる知識も全てゼロから、実践しながらその都度覚えていきます。私にはとても大変です。けれども、貴重な経験になっていると思います。

民間企業に就職を希望される皆さん、会社の雰囲気は資料やホームページだけではわかりません。文字だけではわからないことがたくさんあります。大変かもしれませんが、できるだけ会社訪問などをお願いして、志望企業の雰囲気を直接体験することをおすすめします。また、資格は努力の目安ともなりますが、資格だけで実力がなければあまり意味がありません。経験を積むことが必要だと自戒もこめて、思います。

卒業してすぐに北海道に帰るという選択をしなかったのは、希望の就職先との出会いがあったことはもちろんですが、弘前がとても住みやすい街で好きだということがあります。縁があって「TEKUTEKU」という弘前の情報誌でボランティアスタッフをしたことも、より弘前を知り好きになる良い経験でした。弘前にはまだまだたくさんの良いところ、面白いことがあると思います。仕事で、日常で、それらを発見するたび、住んでいて良かったと思います。

有限会社ビスコム・モバイル URL <http://www.bizcom.jp/>

2005年からこれらの学食・レストランでは「ミールカード」という、一年間の食事定期券のような仕組みが導入されました。所持金がゼロでも「ミールカード」さえあれば、一日千円を上限に食事をするすることができます。仕送り前はインスタント食品で間に合わせがちな学生も、規則正しい健康的な食生活ができるようになっていきます。

このように常に進化を考えている学食は、安くてボリュームがあり、そして美味しい食事を求めている私たち学生の心強い味方だと思います。そして何よりも職員のおばちゃん達(失礼!)があったかく接してくれるので、とてもアットホームな雰囲気です。

「学食、サイコー!」です。

学生の味方「ガクシヨク」

柄澤 卓也 人文学部1年 辻 健太 農学生命科学部1年

学食と言えば、ラーメンや丼物などがメインの食堂を想像する方が多いかと思いますが、弘前大学の文京学生食堂は一味も二味も違います。

自分で食べたいものを選んで摂れるカフェテリアコーナーや、健康に良いサラダバー、煮物や御浸しなど家庭的メニューまでバリエーションがとて豊富です。営業時間も朝8時から夜8時までなので朝食から夕食まで利用できます。



大会館2階の「レストランコーラム」では日替わりと週替わり3種類のランチが人気で、ほかにカレーやパスタが楽しめます。この人気メニューは学生の考えた「岩木山パフェ」など、オリジナリティ溢れたデザートです。ボリュームたっぷりです。美味しいですから、皆さんもぜひ試してみてください。

医学部地区の食堂は「pomme(仏語でりんごの意味)」という愛称で親しまれています。Pommeは1g=1.2円のピュッフエスタイルですので、自分の食べたい分だけ摂って食べることができます。

また、美味しいカレーはどんなに多く盛っても一皿280円となっています。そのため、「土手カレー(皿にご飯でドーナツ状の土手を作り、その中にルーを流し込む)」という芸術的な盛り方で誕生してしまいました。(良い子の学生は真似をしないでくださいね...)

編集後記

冬季オリンピック、パラリンピック、そしてWBCと今冬は「スポーツの冬」という感じがしました。そんな中で本学人文学部の目黒晴絵さんがまさに世界的な脚光を浴びたのはほんとうに喜ばしいことです。カールリングが突然ブレイクしたことは、華々しくはなくとも地道に努力を重ねることの大切さ、そしてそれが何時かは報われるであろうことをわれわれに教えてくれています。チーム青森の活躍を見て、たとえ即座に結果を生まないものであっても、一からじっくりと取り組み、時間がかかっても良い実を作り出そうと励む、それは大学の使命でもあるはずだという思いが強まりました。本号にはそんな話がたまたま多く掲載されているような気がします。なかなか見えにくいところでも、弘前大学は動いています。(芳野@教育学部)

ひろだい

vol.7

2006年4月発行

表紙:創立50周年記念会館みちのくホール編組

弘前大学総務部総務課

「ひろだい」に関するご意見・感想をお聞かせください。

「ひろだい」はWebでもご覧いただけます。下記URLから「大学案内」へお進み下さい。

弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel.0172-39-3012 Fax.0172-37-6594
E-mail: jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp
<http://www.hirosaki-u.ac.jp>